

ふしょうっこ日記

令和7年9月1日



「魅力的な学習」

4時間目に校舎内を歩いていると、文字では言い表すことが難しい、にぶい音が聞こえてきました。「どこから聞こえているのか」と音のする方へ進んでいくと、図工室にたどりつきました。図工室へ入ると、6年生の子供たちが、段ボールカッターを使って段ボールを切っているところでした。どの子も夢中になって取り組んでいます。その段ボールは、400mm×400mm×200mmの大きさの新しい段ボールで、子供たちが扱うにはぴったりの大きさでした。黒板に学習の流れの写真が貼ってあり、「〇〇の世界へワープ」という、段ボールの中に「〇〇の世界」を作る学習でした。段ボールで三角や四角の穴を開けたり、必要な画用紙の色を考えたり、子供たちの頭の中には、「〇〇の世界」をイメージできているようでした。切ってはかぶり、かぶっては少し考えて切り出す様子が見られました。



どの子もが夢中になる学習。わたしたち教師は、そのような学習をめざし、教材研究を行います。「どんな教材を使うか?」「考えを広げる(深める)ためにはどのように問いかけるか」「どのような流れで進めるか」等々、1時間の学習計画を立てるときに多くのことを考えます。その中で一番大切にしたいことは、「子供たちの姿を思い描くこと」です。学習する子供たちが、「きっとこんな反応を示すのではないか」「これには、目を輝すだろう」と想像しながら考えます。大変なことですが、予想どおり、さらに予想を超える反応や学習に夢中になる姿が見られると、教師冥利に尽きます。それが、教師の楽しみ(やりがい)の一つです。